

事例2

< 事例概要 >

肺動脈損傷（推定）

- ① 80歳代、女性、身長150 cm台。大動脈弁狭窄症、心房細動の患者。大動脈弁形成術、メイズ手術を施行。手術前より抗血栓薬休薬（期間不明）。
- ② 右内頸静脈より肺動脈カテーテルを挿入したが、肺動脈楔入圧の測定が困難であったため、カテーテル先端を肺動脈内に留置し（長さ不明）、肺動脈圧で代用。
- ③ 人工心肺開始後、肺動脈カテーテルを数cm引き抜いた（長さ不明）。
- ④ 大動脈遮断解除後、右肺門部付近に出血を認めた。肺動脈損傷を疑い修復を試みたが、出血部位の特定ができず止血困難。右肺全摘術を行ったが、手術から2日後に死亡。
- ⑤ 死因は、右肺動脈主幹部と右上葉肺動脈の分岐部（推定）の損傷による出血性ショック。死亡時画像診断（Ai）有、解剖有（出血時、止血操作で複数回縫合が行われており出血点特定に至らず）。